

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第8号 平成23年4月21日

個の力が和にならず！！

大会3連覇ならず・・・

	1	2	3	4	5	6	7	R
P	0	0	6	0	1	0		7
G	0	1	0	2	0	0		3



4/21 (土) こども自然公園野球場に向き2011 KSC決勝戦をPIOLAXと行った。3連覇を目指し戦ったが、結果は残念ながら敗戦となった。そのゲームを振り返る。初回の攻撃は、両チーム共に三者凡退で2回。この回先頭のコーすけが二失で出塁、その後後続が倒れたが、盗塁と内野ゴロの間に二死三塁と先制の場面、ここで打席に入ったのは、最近好調の梶原、その梶原が、2球目を三塁線を抜く安打で先制を上げた。しかし、チャンスの後にはピンチ有りとはよく言ったもので、まさにそのシーンが訪れた。先頭打者が失策で出塁、ここから5安打、1失策、四球と打者10人の攻撃を浴び一挙6点を与え、逆転されてしまった。4回には、我がチームのおかわり君事、木村が左越えの2-ランを放ったが、翌回到1点を喫し、万事休す、3連覇の夢は砕けていった。4回に2点を挙げたシーンだが、2-ランを浴びた後、相手投手が死球・四球と若干疲れが見え始めたシーン、この場面がこの試合の山場だったように感じる。疲れ、制球難となったシーンでは、先ずは球数を投げさせ、より有利な展開に運ぶのがセオリーだろう。しかし、後続打者は、初球を、一番残念な三遊間方面への打球を打つ、結果、3塁封殺とあわよくば、ダブルを喫する危ういシーン、後続も粘ったものの、三振を喫し、2点で止まってしまった。この回、後、数点挙げていたなら、この日のゲーム展開は、判らなかったのではないかと、思う。また、もう少し分析してみるならば、相手の安打の方向かも知れない。我がチームは引っ張りに徹し、基本のセンター返し及び逆方向の安打が無かったのに対し、相手チームは、9安打のうち半分以上がセンター及び逆方向への安打であった。やはり、引っ張りを意識しすぎると、結果は、引っ掛けに多く繋がる。この結果は、進塁打にも繋がらず、得点にも当然繋がらない。また、もう一つの要因は、一気に取られた得点もあるだろう。これだけの点差では、戦術などは、全く無用になってしまう。逆転をするには、出塁するしかないが、今日の攻撃は、打線の繋がりが無く、ましてや、相手投手の四球も0で有った事から、非常に1塁ベースが遠いゲームとなってしまった。

また、ポジション取りも敗戦の要因の一つに挙げられる。ランナーが溜まっているシーンで外野の頭を越され、大量得点になったシーンがあったが、リスクを考慮すれば、1点は覚悟で、大量得点を防ぐシフトでも良かったのかも知れない。何れにせよ、敗戦する時は、負の要因が重なるもので、その場その場で気持ちの切り替えが出来なかったのが、敗戦の最大要因であろう。負けは負けで、気持ちを切り替える必要があるが、同じ事を繰り返さないためにも、今日の敗戦は忘れてはいけないのである。個の考えではなく、チームの方針としてどうするかを定めなければ、また、同じ事の繰り返しになるだけだから。